

# いわいの大地

4月

No.33

農家と農業委員をつなぐ広報誌



## 地域農業の課題をともに考える



懇談会での委員からの意見と市側からの回答は以下のとおりです。今回の意見交換を踏まえ、一関の農業の発展のため、今後も共に協力していくことが確認されました。

### 市長と農業委員との 農政懇談会開催

平成29年1月27日ユードーム会議室

農業者の現状と課題を共通認識し、今後の農業振興について理解を得るため、農業委員が農業現場からの声を直接、市長へ届けました。

市側からは、市長、農林部幹部職員らが出席、初めに農林部長から当委員会が平成28年11月4日市長へ提出した「農政課題にかかる意見書」に対して施策の内容と考え方の説明がありました。



洪谷皓 委員  
〔花泉地域〕

■委員 中山間部の田は面積要件を満たさないため基盤整備から外れる。小規模な基盤整備をお願いしたい。又、法務局など国の機関がどんどん集約され市内からなくなり不便を来たしているのでサービスを維持するよう国県へ要望してほしい。

■市 面積要件はなかなか崩せない問題である。現場に近い支所の窓口体制を一層充実させ相談体制を整えたい。又、国の機関は中央へ集約されがちであるが、県境にある市町と連携して国・県へ要請していきたい。



佐藤繁 委員  
〔千厩地域〕

■委員 昔あった「一集落一品運動」で農村コミュニティを活性化させたい。つくる農業から最終的に売る農業までの支援を願う。又、集積（農地中間管理事業）から外れた農地に花木を植え福島県の花見山公園のように荒れ地を営農と観光に活かせないものではないでしょうか。

■市 「うまいもん！まるごといちのせきの日」は市内各地域の食材をPRして4年。増えつつある常連客の意見を大事にし「集落」の「一品」もビジネスに繋がるよう取り組みを強めていきたい。集積から外れた農地については、皆で知恵を出し合い対応していきたい。



遠藤勝幸 委員  
〔川崎地域〕

■委員 甲子園や東京ドームで農産物については宣伝している。小さな生産者と大消費地をマッチングし「売る仕組み」をつくってほしい。又、補助金のあり方が画一的であるので、市独自で柔軟に運用できるよう国県へも働きかけをお願いしたい。

■市 生産者の励みになるよう都市部との繋がりをつくっていくため、さらに「地産外商」に力をいれていきたい。補助制度については、費用対効果を考えながら補助が必要な部分について意見をいただきニーズを把握して市として対策も広げていきたい。



佐藤久仁子 委員  
〔藤沢地域〕

■委員 I・L・Cが実現した場合、世界各国の方々から少量多品種な食材が求められるだろう。小規模高齢農家や女性だけでも生産できる品目の情報提供をしてほしい。

■市 スイスの研究所の食材は、地元の朝市から調達される。現にアーティーチョークという野菜の需要が高いらしい。具体的になったら皆さんの協力を得ながら対策を打ち、新たな生産品目に結びつけていきたい。

◆◆◆◆◆  
このほかに委員から出された意見は次のとおりです。

■東稲山麓の世界農業遺産認定推進への取り組みに東山町田河津地区も組み込んでほしい。  
■基盤整備事業の期間短縮について最低でも5年のスパンで仕上げるように国県へ働きかけてほしい。



イチゴづくり  
に魅せられて

農業女子の奮闘の日々 ● 花泉地域

甘さとすっぱさのバランスがいいと「さちのか」について話す花泉町花泉の阿部和恵さん（47）、蜜蜂が飛び交うハウスで4、600本近いイチゴが2作目の収穫期を迎えています。自慢のイチゴは、1畝約48㎡が10畝、小さくても真っ赤な実はすぐに飛び込んでくるほど鮮やかです。会社を辞めて4年、平成26年に青年就農給付金などを利用して新規就農、ナス栽培の父幸吉さんと市内では取り組む人の多くないイチゴ栽培に日々奮闘しています。



**Q** 就農のきっかけ、イチゴを選んだ理由は何ですか？

**A** 会社勤めをしていた当時、農作業を手伝い、畑いっぱいにはびこっていたスギナを根こそぎ抜いてきれいな畑を目の前にした感激は忘れません。農業は、時給もなく頑張った分がそのまま（良くても悪くてもですが…）自分にかえってきます。父は11年間ナスを作っていますが夏はとでも大変です。繁忙期が重ならないこともイチゴを選んだ理由です。

**Q** 苦労していること、気をつけていることは何ですか？

**A** やはり害虫や病気に一番苦労しています。近くのイチゴ作りの先輩農家さんは、頼れる相談者です。イチゴづくりは生産者によって独自の栽培方法があるようです。



【経営規模】  
いちご（ハウス900㎡ 2棟）6アール作付

ので、とにかく自分で勉強の毎日です。とりわけ苗を丈夫に育てるよう心がけています。

**Q** イチゴ栽培をしていて一番の喜びは？

**A** 病害虫から守り、温度管理を行い、やさしく育てたイチゴが、食べた人からおいしいと言われた時、生産者としてのよろこびを感じます。

**Q** 今後の目標や夢を聞かせてください

**A** 早く先輩に追いつくこと。種から育てるイチゴに挑戦して苗を丈夫にし、長い期間採ればと思います。そしてハウスをもう1棟増やしたいです。観光農園も夢です。

## 地域農業で女性が担う役割

投稿 齋藤憲子 委員

女性  
農業委員  
リレー投稿

4



一般の農家を考えた場合、女性は半数を占めているはずですが、担い手として活躍している女性や経営に参画している方は、それほど多くないのが実態です。

農業を担っている女性は、農作物の生産からそれを消費する台所まで、仕事と生活が一体化しており、男性よりもむしろ柔軟な視点で豊富なアイデアや対応ができますし、地域のつながりが強いのも特徴です。

今、様々な団体で女性の登用が求められており、新たな農業委員会制度でも、青年や女性の積極的な登用が呼びかけられています。

農業は、夫婦共同で仕事をしているのですから、農業経営のパートナーとして、「認定農業者」あるいは「家族経営協定」の中で経営に参画してほしいと思いますし、もっと社会参画してほしいと思っています。

まずは、私たち女性自らが意識を変え、農業・農村にある食文化や伝統が脈々と連なっていくように、農業と食の大切さを伝える意味でも、女性パワー全開で役割を担っていきましょう。



市内全域の農地を対象にした今年度の農地パトロールは28年7月11日からスタートし、実日数19日間実施しました。

後継者等が無く草刈等の管理がされていない農地や山林原野化し作付けができなくなった農地を重点的に、各地域毎に班編成し、農地利用状況調査と荒廃農地調査の補完調査を併せ、昨年度に引き続き、藤沢地域を中心に、2,956筆、398haを確認するとともに周辺農地の状況も確認しました。

その結果、再開・保全管理された農地が、208ha、荒廃農地と判断した農地の内、簡易な作業で耕作管理が可能と判断した農地が29ha、すでに山林・原野化して農地への復元が困難と判断した農地が155haとなりました。

今後は耕作者等の意向を把握し、耕作の再開や農地中間管理機構等への貸付等、意向に沿った農地の利用を進めることとなります。



(面積は単位：ha)

| 年度  | 調査    |     | 荒廃農地   |    |        |     | 転用・適用外等 |    | 解消              |     |
|-----|-------|-----|--------|----|--------|-----|---------|----|-----------------|-----|
|     |       |     | 再生可能農地 |    | 再生困難農地 |     |         |    | 改善<br>(再開・保全管理) |     |
|     | 筆数    | 面積  | 筆数     | 面積 | 筆数     | 面積  | 筆数      | 面積 |                 |     |
| H25 | 3,332 | 578 | 672    | 90 | 877    | 263 | 51      | 4  | 1,732           | 221 |
| H26 | 2,612 | 328 | 745    | 89 | 880    | 116 | 79      | 8  | 908             | 115 |
| H27 | 2,471 | 324 | 183    | 22 | 1,121  | 136 | 133     | 9  | 1,034           | 157 |
| H28 | 2,956 | 398 | 174    | 29 | 1,148  | 155 | 93      | 6  | 1,541           | 208 |



2月10日に開催された農作業標準賃金審議会

## 平成29年度 農作業 標準賃金決定

2月10日、平成29年度農作業標準賃金を設定するため、農作業標準賃金審議会を開催しました。審議会の委員は、農家を代表する委託者8名、受託者8名、農業関係団体等から3名、農政専門正副委員長2名で構成され、審議会では賃金動向や経済情勢、農業機械等の価格動向を勘案して審議しました。

## 人力は据置き・機械は「代かき」を改定

委託側、受託側双方から、人力の部については、据え置きが妥当で意見集約され、機械の部については、50a区画未満の代かき料金が、耕起料金の15%割増でそれぞれ設定されていることから、50a区画以上の代かき料金も同様に、現行耕起料金5、250円の15%割増とすることで意見集約されました。

委員からは、牧草作業のフレールモアについて、次年度以降において作業項目への追加を検討してはとの意見が出され、そのことについては農政専門委員会に一任するとの併せての答申となりました。

審議会の答申を受け、2月20日に開催した第7回農政専門委員会においては、左記のとおり確認され、2月28日の第18回農業委員会総会で議決されました。

- ◆人力賃金の部 据置きとする
- ◆機械の部 50a区画以上の代かき作業料金 5,860円から6,040円とする

※標準賃金表は、あくまでも「目安」を定めたものです。実際に作業料金を決める時は、集落等の実情や圃場条件、作業内容を委託者と受託者で十分話し合い調整して決めてください。

# 農業者年金で明るい将来計画!



## 農業者年金の魅力を伝えたい

【川崎地域】  
須崎 一郎さん 智博さん

一関市川崎町の須崎一郎さん(68)、智博さん(32)は、水稲7ha、乳牛40頭を経営し、また農業者年金にも親子で加入しています。

息子の智博さんは、農業専門学校卒業後、父一郎さんの背中を追い、すぐに就農しました。それまで1人で経営していた一郎さんにとって息子の就農はとても心強かったそうです。その後、親子で家族経営協定を結び農業経営の基盤が出来上がったタイミングで智博さんは農業者年金に加入しました。「加入の一番の理由は、認定農業者で青色申告をしている父親と家族経営協定を結んだことで、保険料が半額になった点。また、保険料の全額が社会保険料控除の対象になる点にも魅力を感じている。」とお話いただきました。

一郎さんは、年金を貰い始めて3年が経過しました。「自由に使える収入があるのはありがたい。孫をはじめ、家族のために使いたい。」と目を細めていました。

川崎地域の農業を牽引する須崎さん親子は、農業者年金に加入し将来の安心した生活のための準備も万全です。

農業者年金のお問い合わせは地域の農業委員またはお近くのJA窓口へ  
電話 21-8692 (一関市農業委員会)



### ①幅広い方が加入でき脱退も自由!

- 加入の要件は下記3つ
- ・国民年金第1号被保険者であること
- ・60歳未満であること
- ・年間60日以上農業に従事していること

### ②家族ひとりひとりが自分の年金を掛けられます!

女性は男性よりも平均寿命が5年長いと言われていいます。男性の世帯主の老後だけでなく、奥様や後継者の将来についてもじっくり考えましょう。

### ③安心の積立方式・確定拠出型!

安全・安心を優先して可能な限りの利回りを確保する長期運用。毎年6月に加入者の皆さんに運用結果をお知らせします。

### ④保険料は自由に選択!

負担を軽くしたり、積み増ししたり…いつでも見直し可能です。

### ⑤全額社会保険料控除で大きな節税効果!

支払った保険料の全額が社会保険料控除の対象です。ご家族の方の保険料も一緒に申告すればさらに大きな節税に。

### ⑥80歳までの保証付き!

農業者年金は終身受け取りができ、80歳前に亡くなってしまった場合でも死亡一時金をご遺族に支給されます。

### ⑦若い担い手の方には国庫補助!

20年以上の加入が見込まれ、認定農業者等の要件を満たす方には最大半額の国庫補助があります。



## 全国農業新聞の購読を!

農業委員会組織が協力して作成している新聞で、毎週金曜日発行しています。

●お申込みは、  
農業委員会または各支所産業経済課まで

購読料  
月額 700円

## 編集後記



太陽の光が強くなり、仕事に追われる日々が近づきつつあります。

農業にかかわることわざの中で一つ納得するものがあります。「上農は草を見ずして草を取り、中農は草を見て草を取り、下農は草を見て草を取らず」。

これは、危険予知のハイシリツビの法則(※)と同じだなあと感心すると同時に、自分に対しての戒めの言葉に聞こえてなりません。

このくらいの雑草なら作物の下になり大丈夫だろうと思っていると作物より成長が早く手におえない状態の結末になることがしばしばです。農作業が本格化し、これから大変忙しくなる時期です。農作業も「ビヤリ・ハット」と感じることが災害につながりますので、小さな気付きから大きな被害や災害を予知して、農作業事故を防いでください。

そして「粒万倍と家内健康を祈念しております」。

(※) ハイシリツビは、ある工場で発生した労働災害5,000件余を統計学的に調査、以下のような法則を導いた。「災害」で現れた数値は「1・29・300」。その内訳は、「重傷」以上の災害が1件あったら、その背後に29件の「軽傷」を伴う災害が起こり、300件もの「ビヤリ・ハット」した(危く大惨事になる)被害のない災害が起きていたことになる。

農業委員 遠藤 勝幸

「いわいの大地」編集委員会

編集委員長 伊藤 勉

副編集委員長 佐藤 修

編集委員 芳賀 武郎 遠藤 勝幸

菅原 豊一 皆川 清喜

藤野 眞喜 佐藤 圭一

